

道路空間を活用した街なかの賑わい作りの取組み

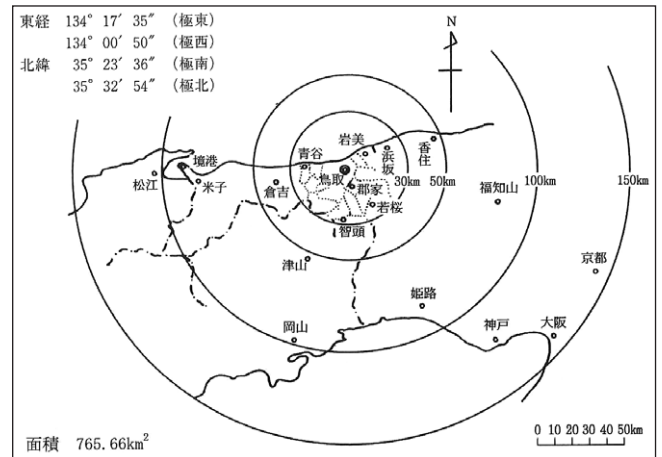
鳥取市 都市整備部 都市計画課 市街地整備室

1. はじめに

鳥取市は、日本最大の砂丘である鳥取砂丘を有し、鳥取県の北東部に位置する人口約20万人の県都です。江戸時代に鳥取藩池田家32万石の城下町が造営されて以降、因幡地域における政治、経済、文化の中心として発展してきました。

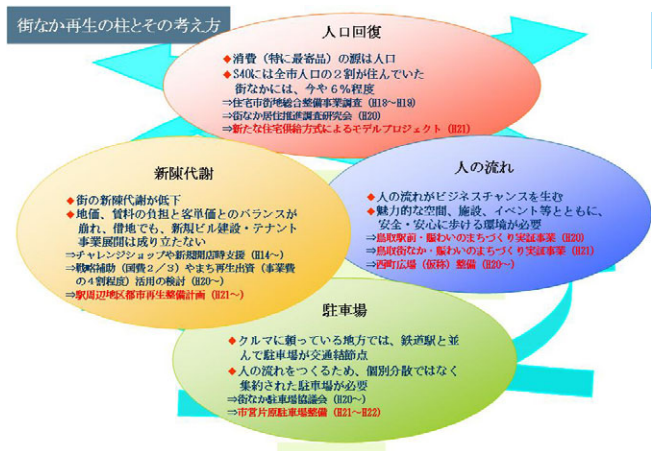
また、年間を通して日本海で水揚げされる新鮮な海の幸が楽しみ、特に冬場の松葉がには七輪で焼くと、かに本来の甘みが増し絶品です。

現在、中国横断自動車道姫路鳥取線の整備が、今年度末の鳥取県内区間完成に向け進められており、大都市圏との移動所要時間の短縮が期待されます。



2. 中心市街地の再生

他の多くの地方都市と同様、本市の中心市街地においても人口・商業の郊外化や、人口減少・少子高齢化により中心市街地の衰退が進んでいます。そのため、コンパクトで持続可能なまちづくりの実現を目的として、中心市街地再生に向けた様々な取組みを展開しています。



3. 道路空間を活用した街なかの賑わい創出実験



平成21年3月に市街地を取り巻く鳥取環状道路が開通しました。街なかを通過する自動車交通量の減少を見据え、中心市街地の再生に寄与する道路空間の活用を検証する実証事業を平成20年度（10/4～10/13：10日間）、21年度（9/14～9/23：10日間）の2カ年にわたって実施しました。

実証事業では、「街の顔」である鳥取駅前の太平洋線通り（県道西町・鳥取停車場線：平成20,21年度実施）と駅前通り（県道鳥取停車場線：平成21年度実施）の

4車線道路を2車線に減らして、空いたスペースに天然の芝生を敷くなど人が集える空間を創るとともに、人を誘う「魅力づくり」の実証事業を行いました。

具体的には、①道路空間に芝生を敷きイスやベンチを設置しオープンカフェ、バザールの開催や親子連れなどが憩える空間の創出。②地場の資源を生かした、砂像、足湯などによる街なかの回遊性向上・滞在時間延長の取組み。③年間約2万人がJRやバスで乗降する鳥取駅から商業街区への横断歩道設置によるアクセス改善。④街なかに来やすくする仕組みづくりとして駐車場無料開放デーなどの様々な取組みを実施しました。



4. 検証の結果と課題

道路空間に芝生を敷き休憩やイベントが実施できる魅力的なスペースを創出し、そこで様々なイベントを実施することで、エリア内及びその周辺の歩行者・自転車通行量が増加しました。

また、アンケート調査結果においても「このような取組みを恒常的に望む」声が約8割にも上る結果となりました。

交通への影響については、特にタクシー・トラックなどの営業車で、「周辺の施設等への出入りに支障があった。」との声があり、これは、交通規制エリア内の迂回車両が一部の路線に集中したことや荷捌き停車帯の案内、スペースが不十分だったことによるものと考えられます。



5. 今後の展開

2カ年にわたる実証事業により、市民が「こうすれば街が変わる。」という一つの成功体験を共有することが出来たのではないかと思います。この意識を風化させないよう、本格実施に向けた事業展開を進めることが必要だと考えます。

地元商店街、道路管理者、交通管理者など関係機関と協力して、道路空間を有効に活用した、住んでみたい、行ってみたい、魅力ある街なか再生の取組みを推進して行きたいと思います。